

# 岡山県感染症週報 2018年 第2週 (1月8日～1月14日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

## ◆2018年 第2週 (1/8～1/14) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

- 第52週 2類感染症 結核 1名(70代 男)  
5類感染症 アメーバ赤痢 1名(50代 男)  
後天性免疫不全症候群 1名(20代 男)
- 第1週 2類感染症 結核 2名(50代 男 1名、80代 男 1名)  
5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名(70代 男)
- 第2週 2類感染症 結核 1名(60代 女)  
5類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2名(40代 男 1名、70代 男 1名)  
侵襲性肺炎球菌感染症 1名(幼児 男)  
梅毒 3名(10代 男 1名、20代 女 1名、40代 男 1名)  
百日咳 4名(10代 男 1名・女 1名、50代 女 2名)

### ■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

- インフルエンザは、県全体で2,126名(定点あたり22.57→25.31人)の報告があり、前週より増加しました。  
○感染性胃腸炎は、県全体で297名(定点あたり5.72→5.50人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。

### 【第3週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が129施設でありました。(1月15日～18日)

1. **インフルエンザ**は、県全体で2,126名(定点あたり22.57→25.31人)の報告があり、前週より増加しました。岡山県は、12月7日に「**インフルエンザ注意報**」を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、真庭地域(47.00人)、倉敷市(40.19人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「**インフルエンザ週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ [『2017/2018年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報」発令中!』](#)をご覧ください。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で297名(定点あたり5.72→5.50人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、備前地域(8.00人)、岡山市・倉敷市(各6.00人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「**感染性胃腸炎週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ [『2017/2018年感染性胃腸炎情報』](#)をご覧ください。
3. **百日咳**は、成人を含む患者の発生動向が、適時かつ正確に把握できず、対応に遅延が生じる可能性があるという理由から、2018年1月1日より定点把握疾患から全数把握疾患に変更されました。その変更後、岡山県内で初めて4名の報告がありました。全国では、第1週(1/1～1/7)に8名報告されています。  
百日咳は、特有のけいれん性の咳発作を特徴とする急性気道感染症です。感染経路は、鼻咽頭や気道からの分泌物による飛沫感染や接触感染で、有効な予防方法は、ワクチンを接種することです。いずれの年齢でも感染しますが、小児に多く、1歳未満の乳児では重症化することもあります。成人では咳が長期にわたり持続しますが、比較的軽症であるため、感染していることに気づかずに、ワクチン未接種の重症化しやすい乳児にうつしてしまうことがあります。咳などの呼吸器症状がある人は、可能な限り乳児との接触をさけるとともに、咳エチケットを心がけるなど、感染の拡大防止に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	ヘルパンギーナ		★
流行性耳下腺炎			急性出血性結膜炎		
流行性角結膜炎		★	細菌性髄膜炎		
無菌性髄膜炎			マイコプラズマ肺炎		★
クラミジア肺炎			感染性胃腸炎(ロタウイルス)		

【記号の説明】 前週からの推移： ：大幅な増加 ：増加 ：ほぼ増減なし ：大幅な減少 ：減少  
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)

空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

## インフルエンザ週報 2018年 第2週 (1月8日～1月14日)

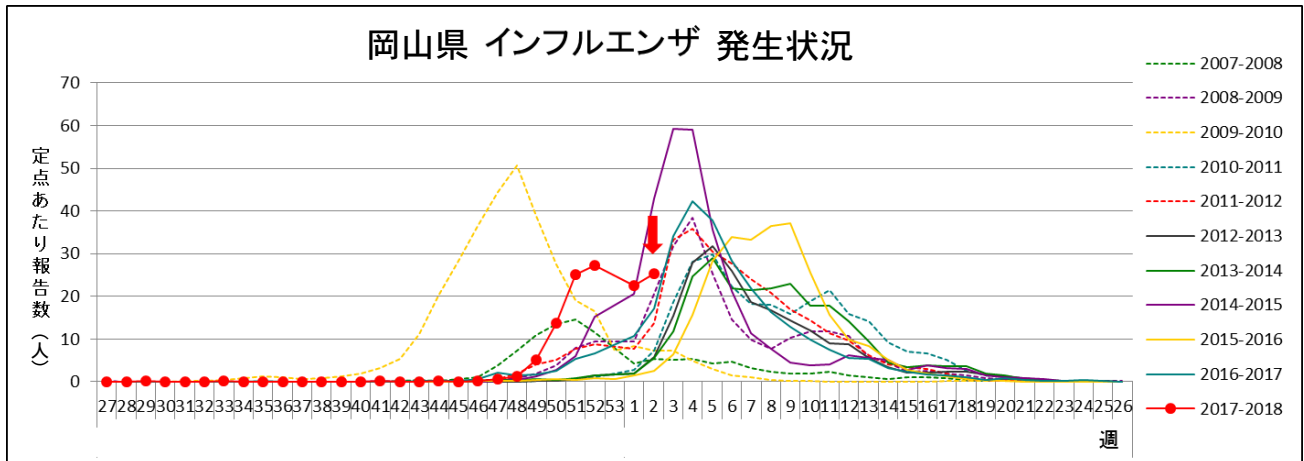
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

## ➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で2,126名(定点あたり25.31人)の報告がありました。(84定点医療機関報告)
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が3施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者20名の報告がありました。

## 【第3週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が129施設でありました。(1月15日～18日)



インフルエンザは、県全体で2,126名(定点あたり22.57 → 25.31人)の報告があり、前週より増加しました。岡山県では、12月7日に「インフルエンザ注意報」を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、真庭地域(47.00人)、倉敷市(40.19人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。倉敷市、備中地域(24.58人)及び真庭地域では発生レベル3が継続しており、岡山市(19.14人)、備前地域(19.73人)、備北地域(19.33人)及び美作地域(21.40人)では発生レベル2が継続しています。

新学期が始まって以降、第3週(1/15～)には、学校等の臨時休業が多数報告されており、今後も患者の増加が懸念されます。ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、『外出後や食事前の手洗いを徹底する』、『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する』、『十分な睡眠をとる』など、感染予防に努めましょう。また、症状のある方は早めに医療機関を受診しましょう。

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

## ◆インフルエンザは流行期に入っています。 感染予防に努めましょう。

## 【 予 防 】

- \* 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- \* 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- \* 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- \* 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。

## 【 かかったかな? という時には 】

- \* 早めに医療機関を受診しましょう。
- \* 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。
- \* 周りの人にうつさないように、『[咳エチケット](#)』を心がけましょう。

# 1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	2,126	↗	備 中	患者数	295	↗
	定点あたり	25.31			定点あたり	24.58	
岡山市	患者数	421	↗	備 北	患者数	116	↗
	定点あたり	19.14			定点あたり	19.33	
倉敷市	患者数	643	↗	真 庭	患者数	141	↗
	定点あたり	40.19			定点あたり	47.00	
備 前	患者数	296	↗	美 作	患者数	214	↗
	定点あたり	19.73			定点あたり	21.40	

【記号の説明】 前週からの推移    ↗ : 大幅な増加    ↘ : 増加    → : ほぼ増減なし    ↘ : 大幅な減少    ↙ : 減少  
 大幅：前週比 100%以上の増減                      増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

## インフルエンザ感染症マップ

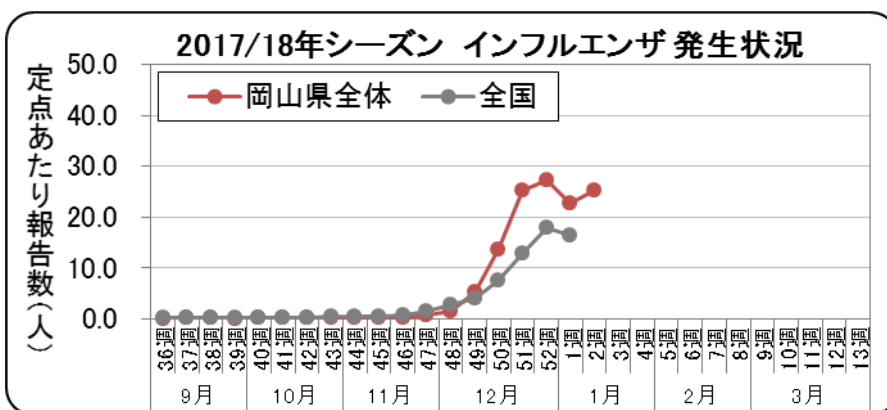
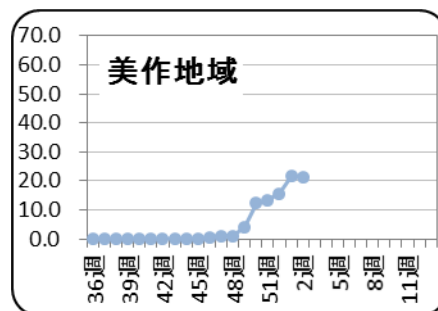
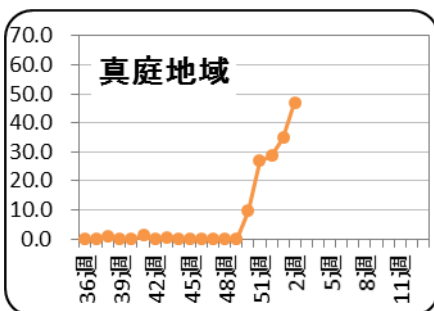
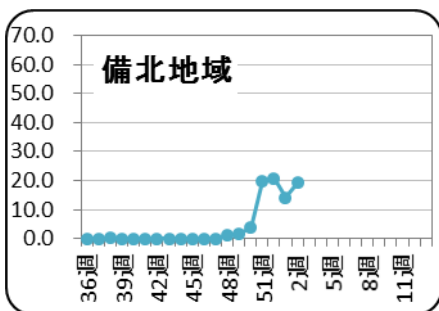
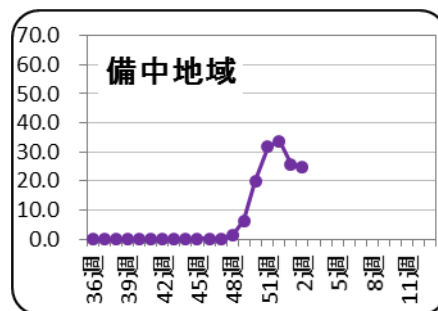
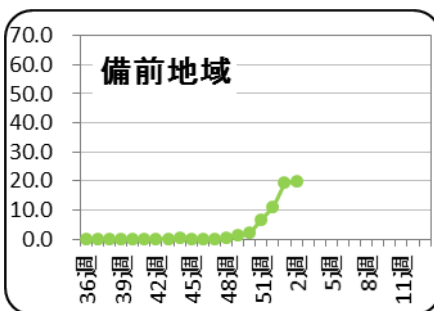
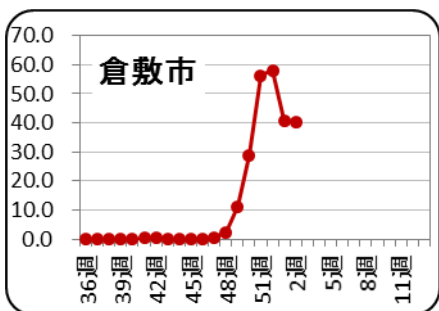
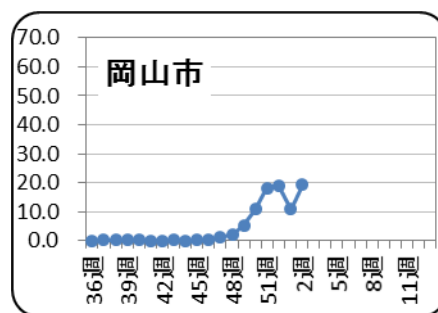


### <インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満

レベル1	報告なし
基準値	基準値
0 < 10 未満	0

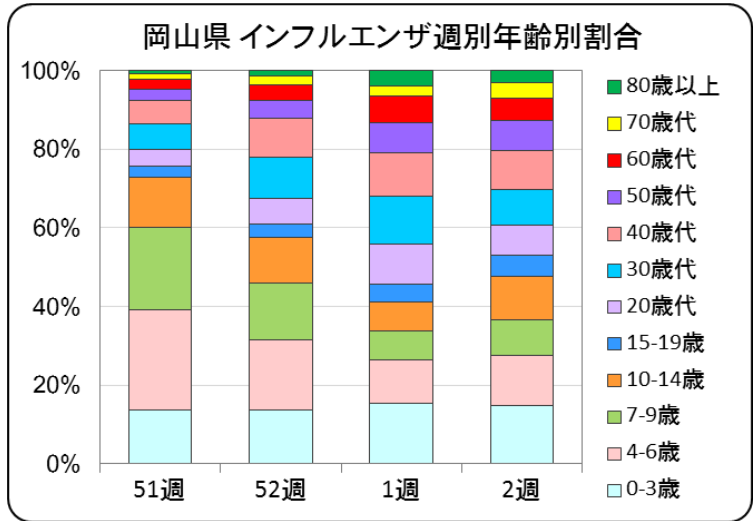
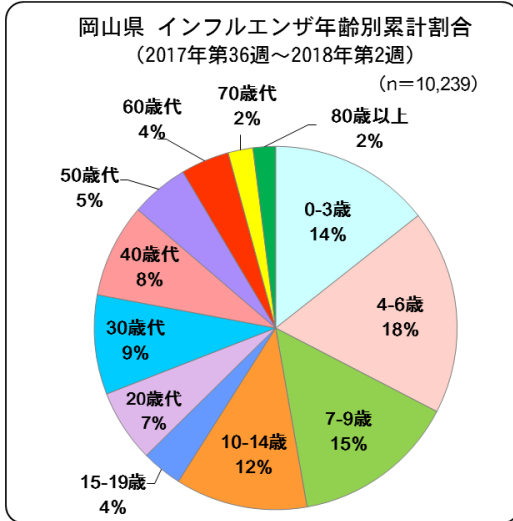


全国集計第1週（1/1～1/7）速報値によると、全国の定点あたり報告数は16.31人となり、前週（17.88人）より減少しました。都道府県別では、宮崎県（34.17人）、沖縄県（31.76人）、大分県（28.93人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、20府県で前週の報告数よりも増加がみられました。

[インフルエンザの発生状況について](#)  
 （厚生労働省）

## 2. 年齢別発生状況

今シーズンの年齢別累計割合は、4-6歳 18%、7-9歳 15%、0-3歳 14%の順で高くなっています。週別年齢別割合をみると、新学期の始まりに伴い、学校などで集団生活をしている年齢層で増加しています。

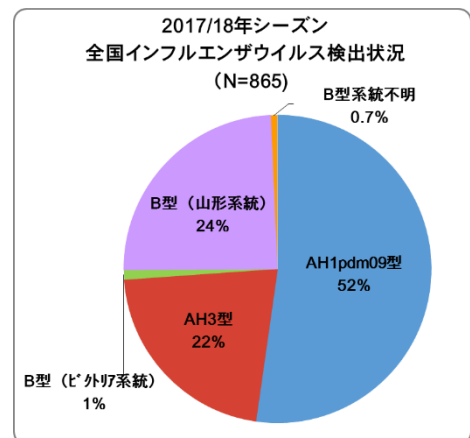
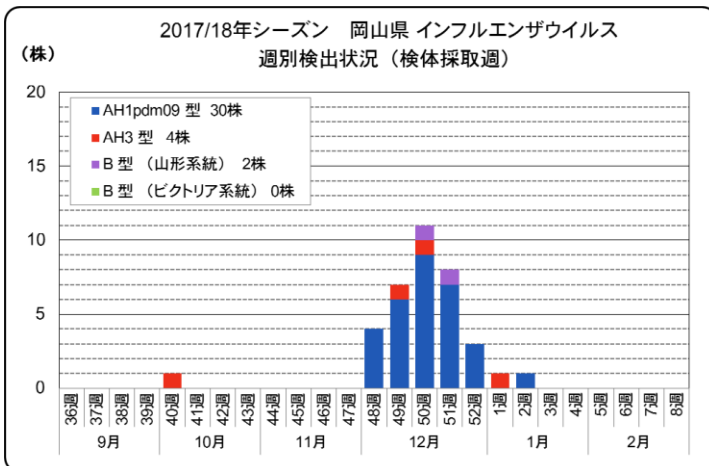


## 3. インフルエンザウイルス検出状況

第2週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、9株（詳細は下表参照）でした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは36株で、その内訳は、AH1pdm09型 30株、AH3型 4株、B型（山形系統）2株となっています。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型 52%、AH3型 22%、B型 25.7%〔山形系統 24%・ビクトリア系統 1%・系統不明 0.7%〕となっています。（12月27日現在）

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2018年第2週(1/8～1/14)	2018/1/9	倉敷市	40代	女	
インフルエンザウイルスAH3型	2018年第1週(1/1～1/7)	2018/1/4	倉敷市	20代	女	
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2017年第52週(12/25～12/31)	2017/12/28	岡山市	幼児	女	
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2017年第52週(12/25～12/31)	2017/12/28	倉敷市	小学生	男	
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2017年第52週(12/25～12/31)	2017/12/26	岡山市	90代	男	
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2017年第51週(12/18～12/24)	2017/12/21	倉敷市	30代	女	
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2017年第51週(12/18～12/24)	2017/12/21	倉敷市	幼児	女	
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2017年第50週(12/11～12/17)	2017/12/13	倉敷市	幼児	女	
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2017年第50週(12/11～12/17)	2017/12/12	倉敷市	60代	女	

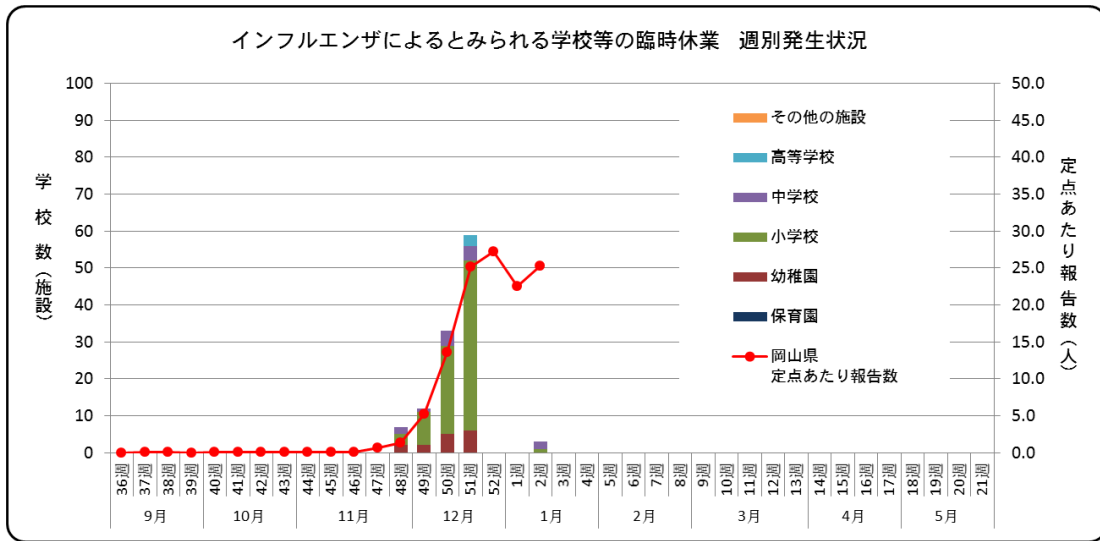


#### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が3施設でありました。

【第2週 臨時休業施設数】

▽岡山市 1      ▽津山市 1      ▽吉備中央町 1



#### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	253	2035	151	1631	3	114	1	4	1	24	1	86	H29.11.27
岡山市	20	363	7	274	1	24	—	—	0	2	1	22	H29.11.27
倉敷市	0	831	0	705	0	44	—	—	0	3	0	41	H29.11.27
備前地域	0	53	0	46	0	5	0	1	0	1	0	3	H29.12.13
備中地域	5	307	3	268	1	23	0	1	1	7	0	15	H29.12.5
備北地域	0	40	0	38	0	4	—	—	0	3	0	1	H29.12.4
真庭地域	0	35	0	31	0	2	—	—	0	2	—	—	H29.12.18
美作地域	228	386	141	269	1	12	1	2	0	6	0	4	H29.12.4

#### 2) 臨時休業施設数の内訳

第2週：3施設

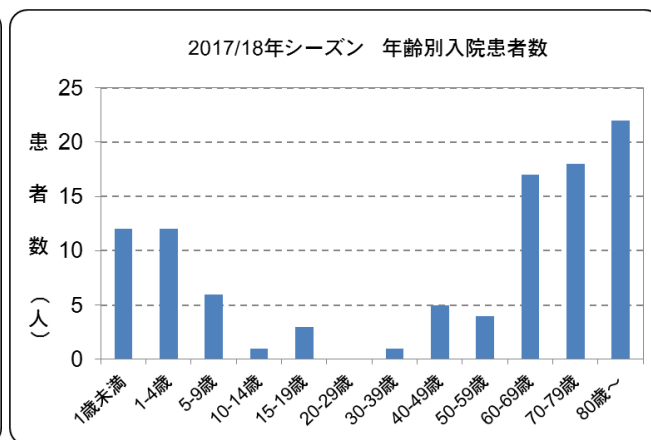
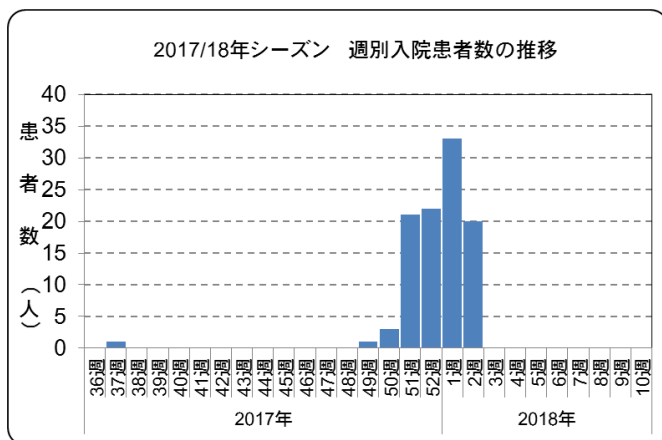
累計：114施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	15	1	83	2	13	0	3	—	—

## 5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、20 名（1～4 歳 2 名、15～19 歳 1 名、60～69 歳 5 名、70～79 歳 8 名、80 歳以上 4 名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



### 【第2週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数		2			1					5	8	4	20
ICU入室*											1	1	2
人工呼吸器の利用*													
頭部CT検査(予定含)*												2	2
頭部MRI検査(予定含)*										1			1
脳波検査(予定含)*													
いずれにも該当せず		2			1					4	7	2	16

\* 重複あり

### 【2017年9月4日以降に入院した患者の累計数】

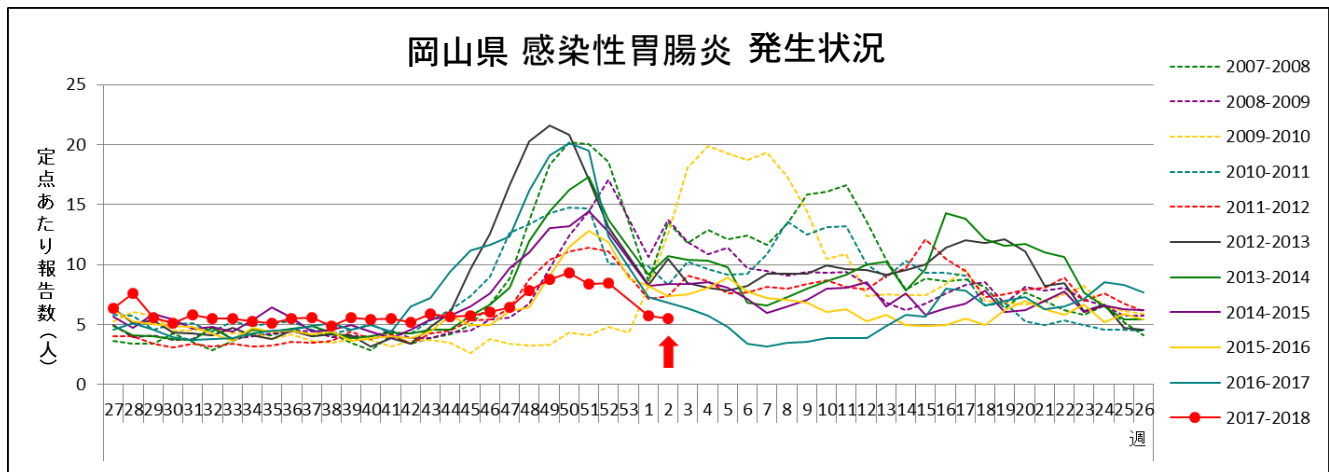
年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	12	12	6	1	3		1	5	4	17	18	22	101
ICU入室*		1								2	4	1	8
人工呼吸器の利用*													
頭部CT検査(予定含)*	1	3					1			3	1	5	14
頭部MRI検査(予定含)*	1	3	1				1			2		1	9
脳波検査(予定含)*		3											3
いずれにも該当せず	10	7	5	1	3			5	4	13	14	17	79

\* 重複あり

感染性胃腸炎週報 2018年 第2週 (1月8日～1月14日)

➤ 岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で297名(定点あたり5.50人)の報告がありました。(54定点医療機関報告)

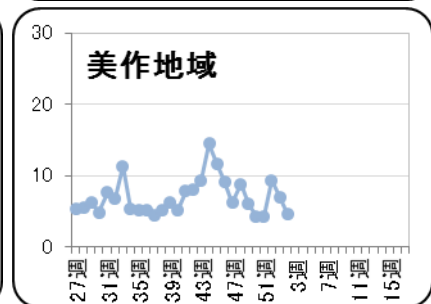
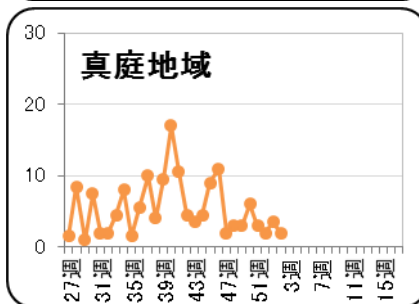
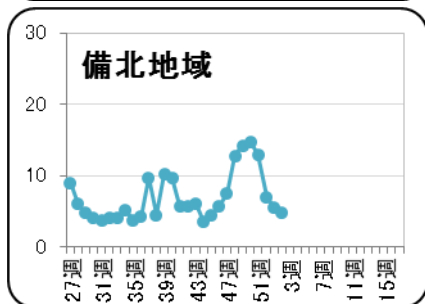
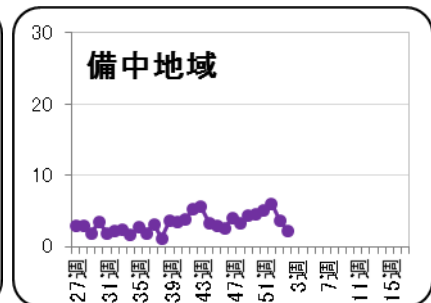
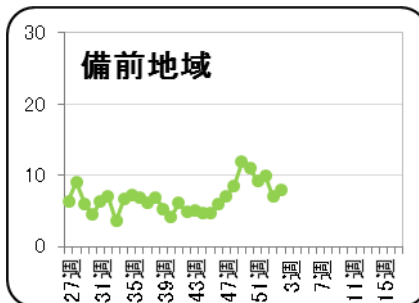
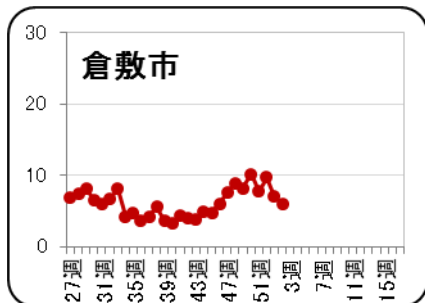
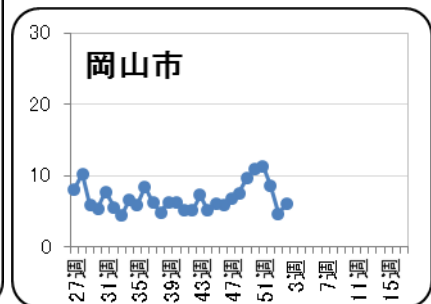
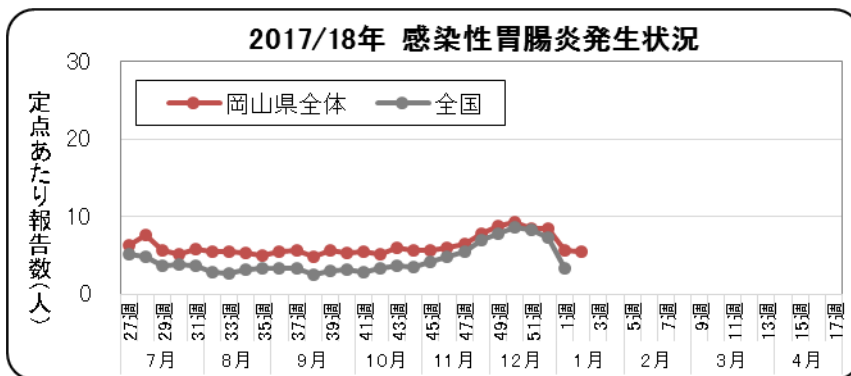


※感染性胃腸炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週で、グラフを作成しています。

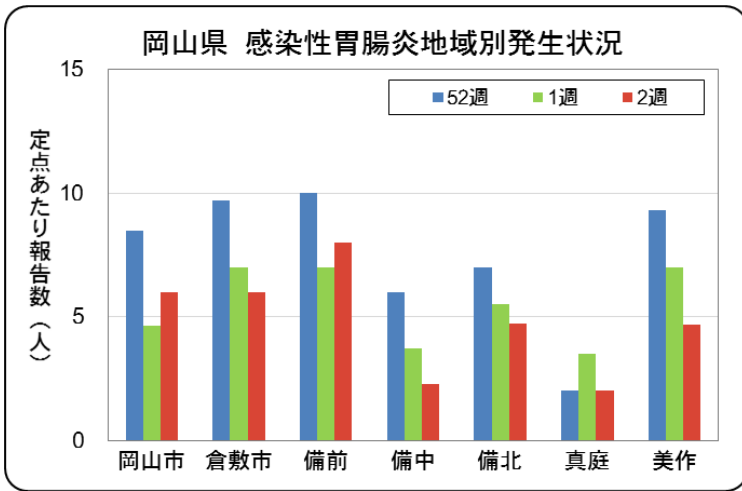
感染性胃腸炎は、県全体で297名(定点あたり5.72→5.50人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。

冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。また、小さなお子さんや高齢の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

◆地域別・年齢別発生状況

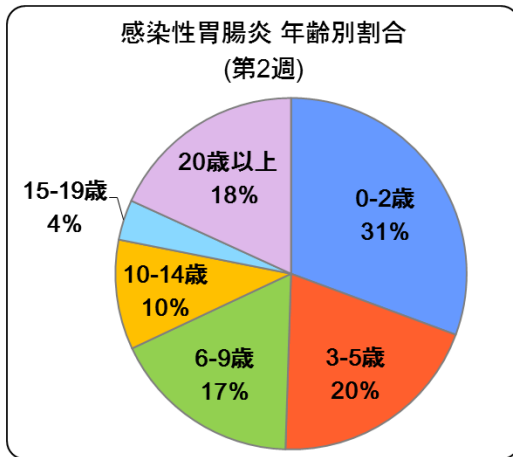






レベル3		レベル1		報告なし	
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値	基準値
20	12	0	0	0	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。



地域別では、備前地域（8.00人）、岡山市・倉敷市（各6.00人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。多くの地域で患者の減少がみられましたが、岡山市と備前地域では増加しました。

第2週年齢別割合では、0-2歳 31%、3-5歳 20%、20歳以上 18%の順で高くなっています。

## ◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に気をつけましょう ◆◆

### 予 防 方 法

#### 1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

#### 2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理をするときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取りましょう。拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム**（※家庭用塩素系漂白剤でも代用可）で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

#### 3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で1分間以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（※家庭用塩素系漂白剤でも代用可）での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水が利用可能である洗濯機があれば熱水洗濯、または次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

#### 4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を85～90℃で90秒間以上）

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。

[○ノロウイルスに関するQ&A（厚生労働省）](#)

[○ノロウイルス感染症とその対応・予防（家庭等一般の方々へ）（国立感染症研究所）](#)

[○ノロウイルス食中毒予防対策リーフレット（厚生労働省）](#)

[○ノロウイルス食中毒予防のための適切な手洗い（動画）（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数 2018年 2週(定点把握)

( 2018/01/08~2018/01/14 )

2018年1月18日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2126	25.31	421	19.14	643	40.19	296	19.73	295	24.58	116	19.33	141	47.00	214	21.40
RSウイルス感染症	16	0.30	5	0.36	3	0.27	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	5	0.83
咽頭結膜熱	14	0.26	2	0.14	6	0.55	1	0.10	3	0.43	1	0.25	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	74	1.37	27	1.93	26	2.36	7	0.70	4	0.57	5	1.25	1	0.50	4	0.67
感染性胃腸炎	297	5.50	84	6.00	66	6.00	80	8.00	16	2.29	19	4.75	4	2.00	28	4.67
水痘	6	0.11	4	0.29	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	7	0.13	6	0.43	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	17	0.31	6	0.43	5	0.45	2	0.20	1	0.14	1	0.25	-	-	2	0.33
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	1	0.20	4	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 or 0.00 ) ( 空白 : 定点なし )

保健所別報告患者数 2018年 2週(発生レベル設定疾患)

( 2018/01/08～2018/01/14 )

2018年1月18日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2126	25.31	421	19.14	643	40.19	296	19.73	295	24.58	116	19.33	141	47.00	214	21.40
咽頭結膜熱	14	0.26	2	0.14	6	0.55	1	0.10	3	0.43	1	0.25	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	74	1.37	27	1.93	26	2.36	7	0.70	4	0.57	5	1.25	1	0.50	4	0.67
感染性胃腸炎	297	5.50	84	6.00	66	6.00	80	8.00	16	2.29	19	4.75	4	2.00	28	4.67
水痘	6	0.11	4	0.29	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	7	0.13	6	0.43	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	1	0.20	4	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3  
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2  
を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2018年 第2週 2018/01/08～2018/01/14 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	2126	5	28	91	85	104	87	95	91	59	66	70	231	116	163	194	211	159	123	83	65

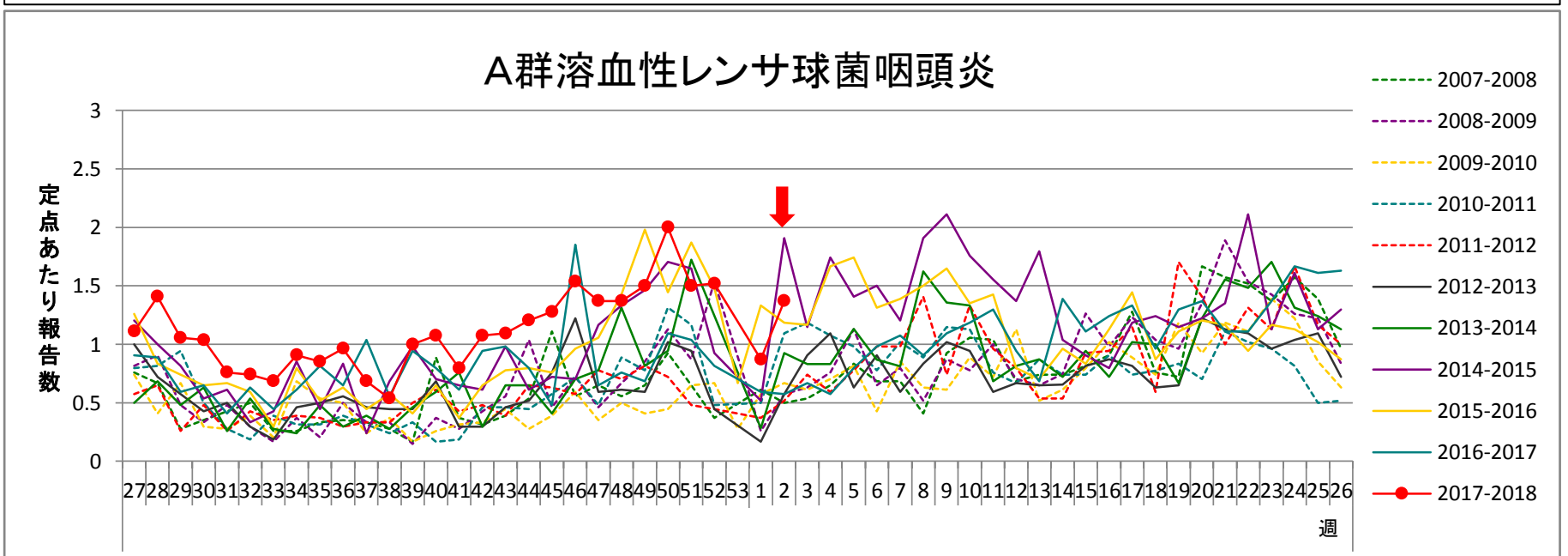
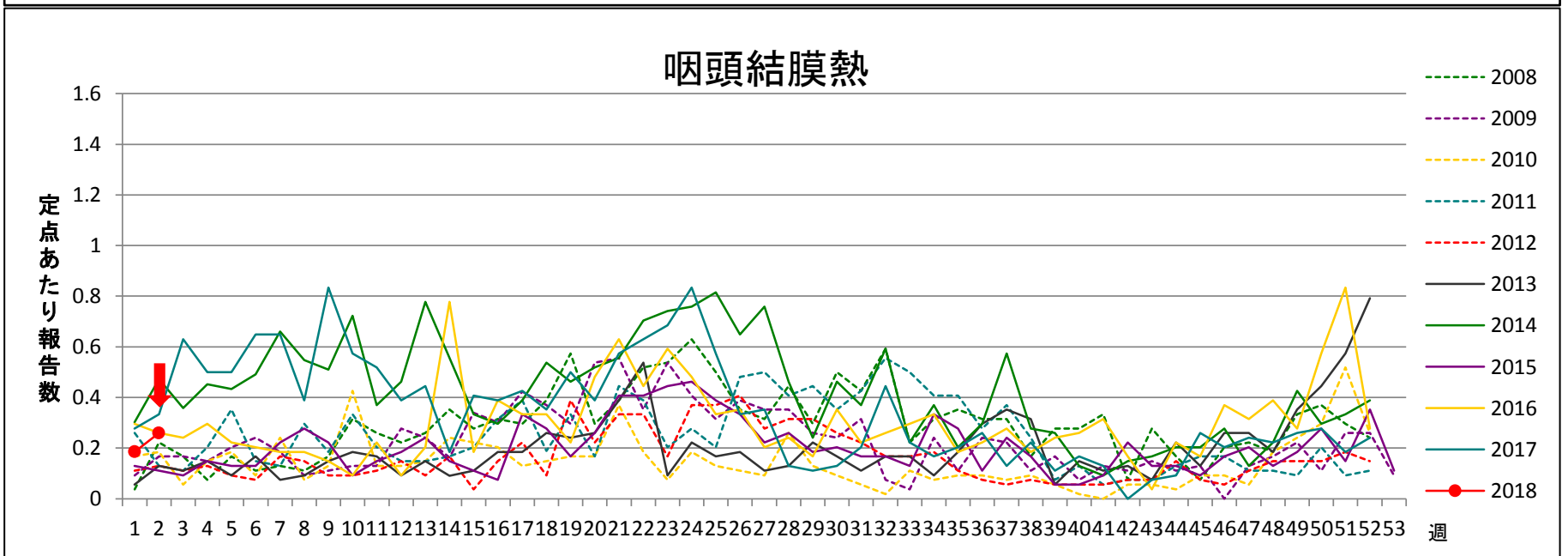
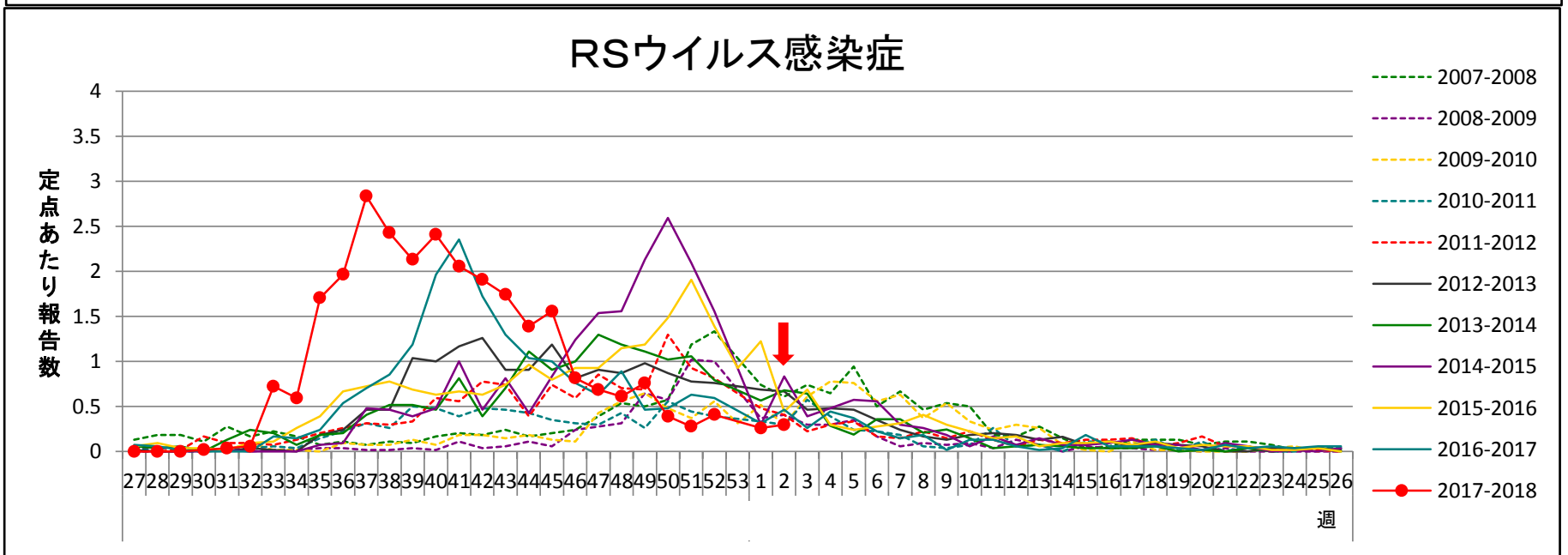
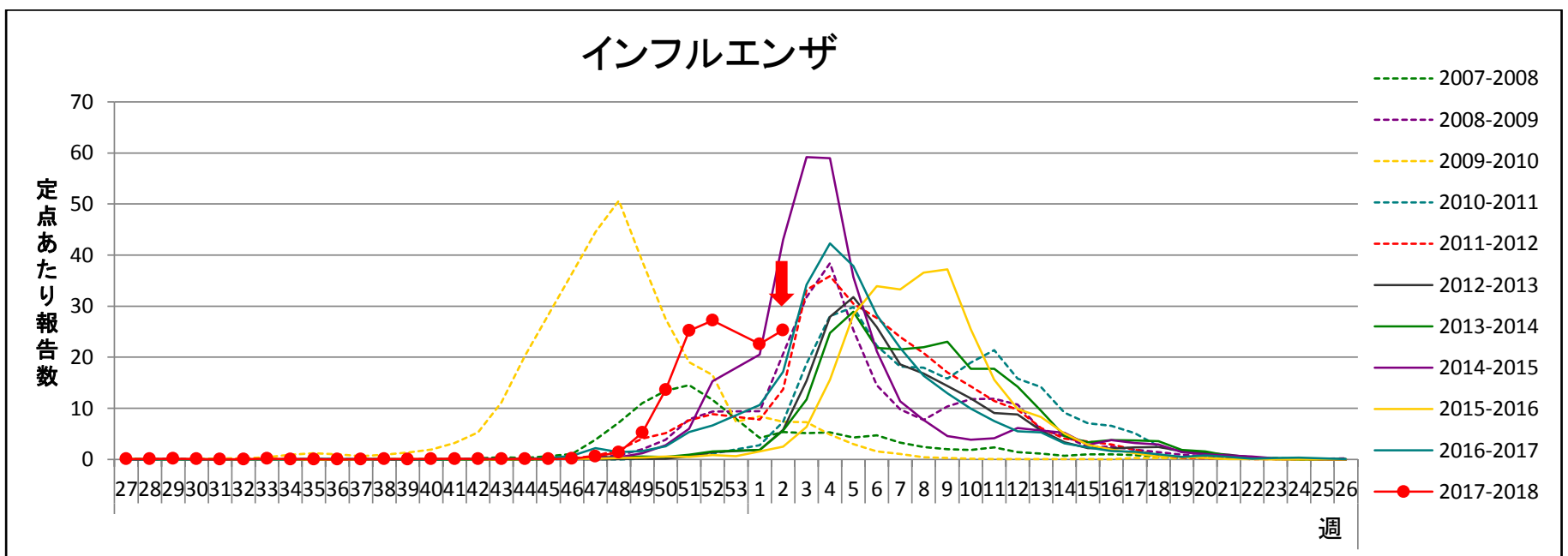
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	16	7	3	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	14	-	1	5	2	3	2	-	-	-	1	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	74	2	-	2	8	5	8	11	8	6	5	4	9	1	5
感染性胃腸炎	297	6	22	39	24	24	16	19	22	15	11	4	30	11	54
水痘	6	-	2	-	-	-	-	2	-	-	1	1	-	-	-
手足口病	7	-	1	3	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	17	-	6	9	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	1	1

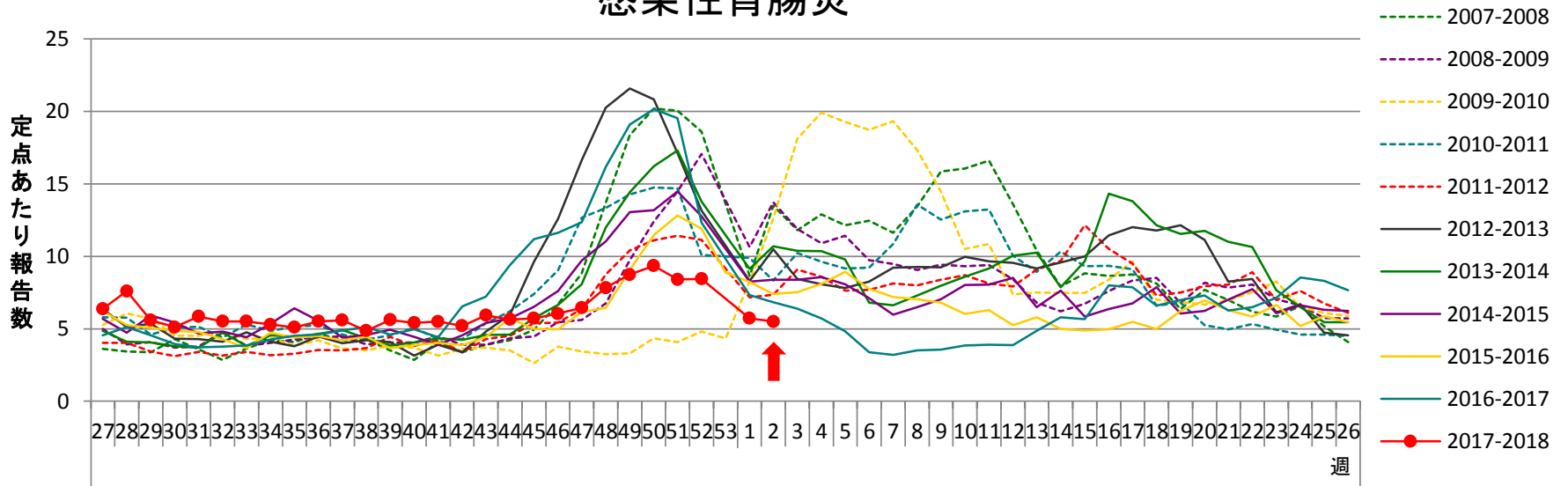
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 )

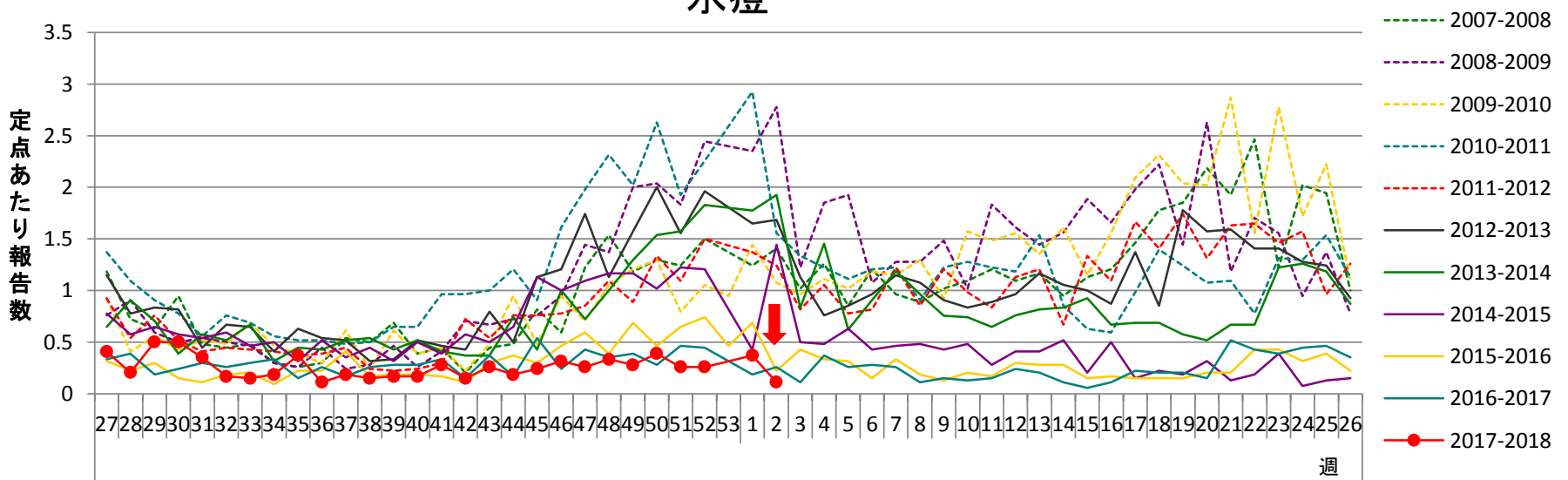




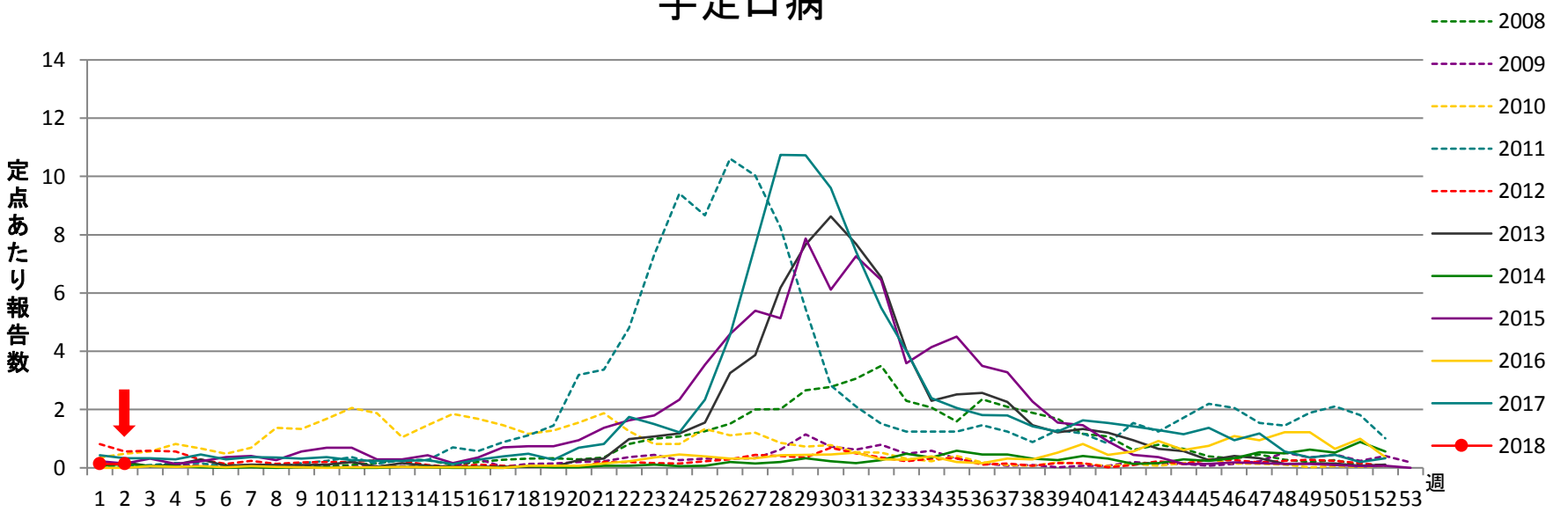
### 感染性胃腸炎



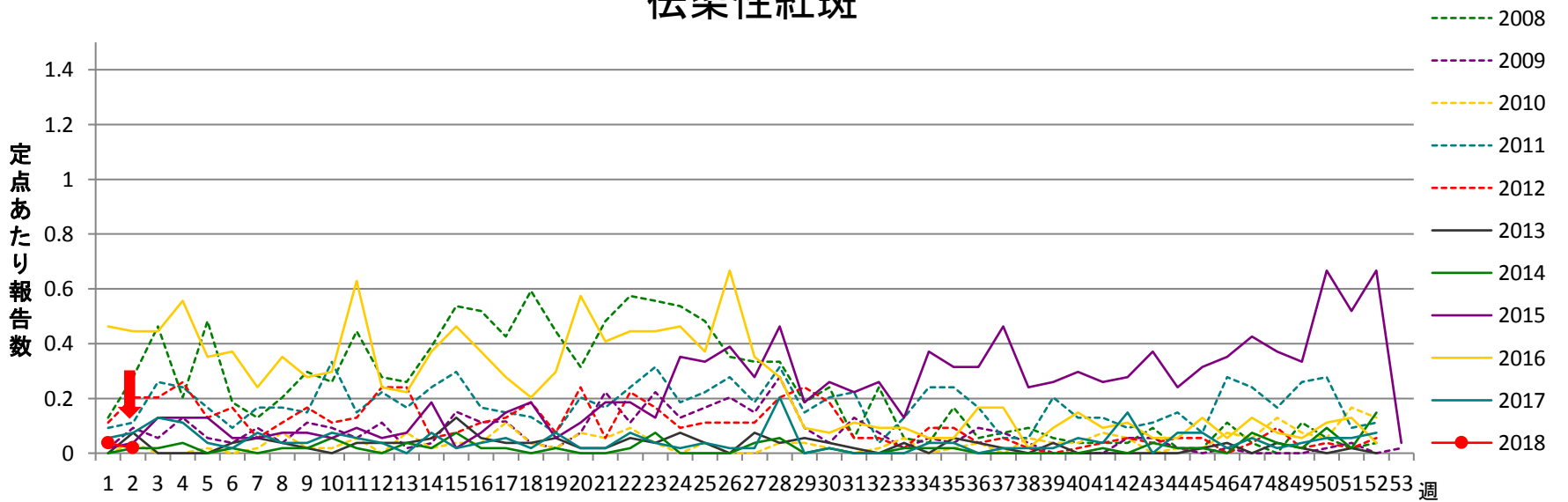
### 水痘



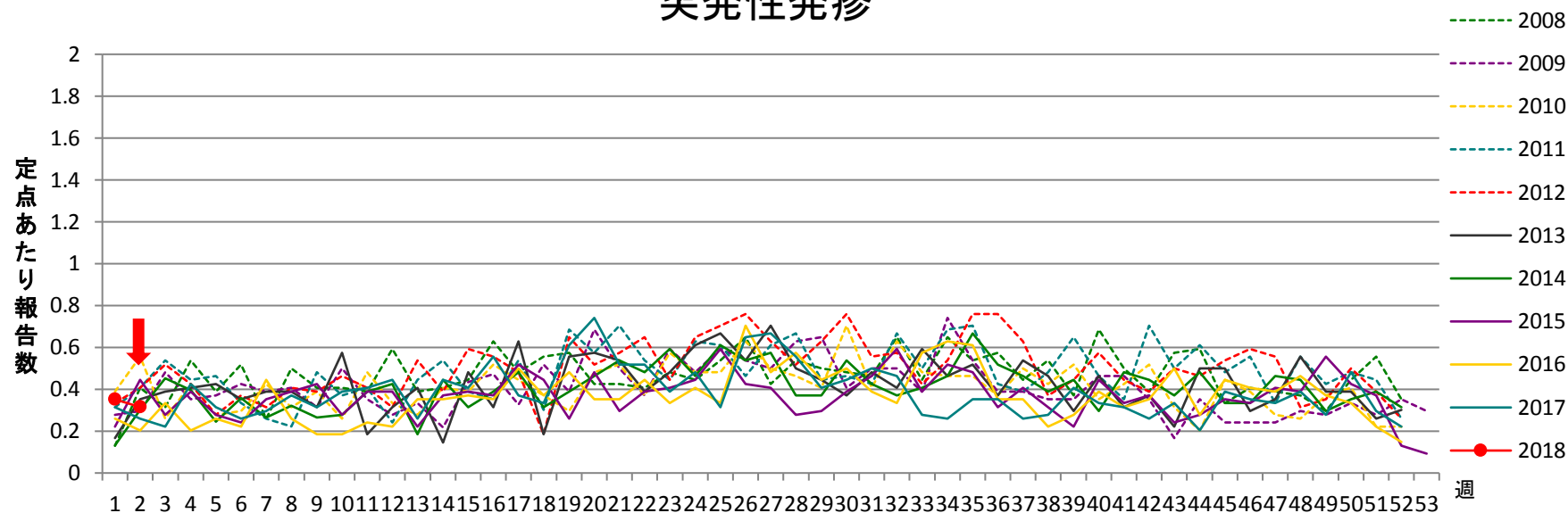
### 手足口病



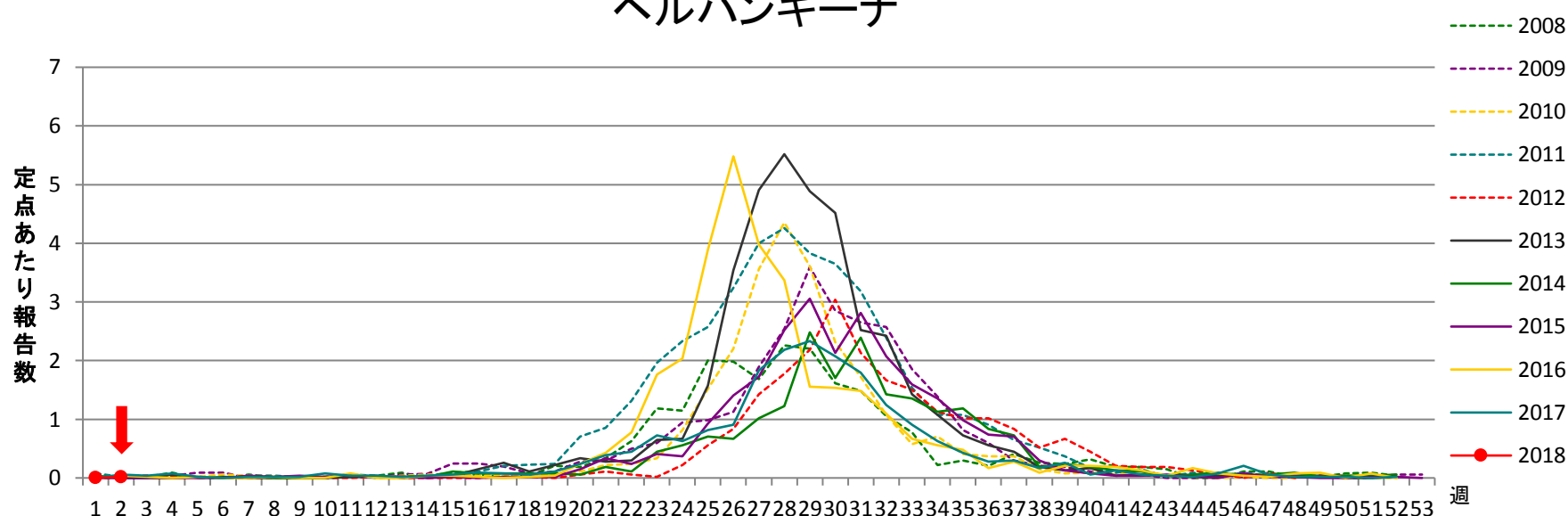
### 伝染性紅斑



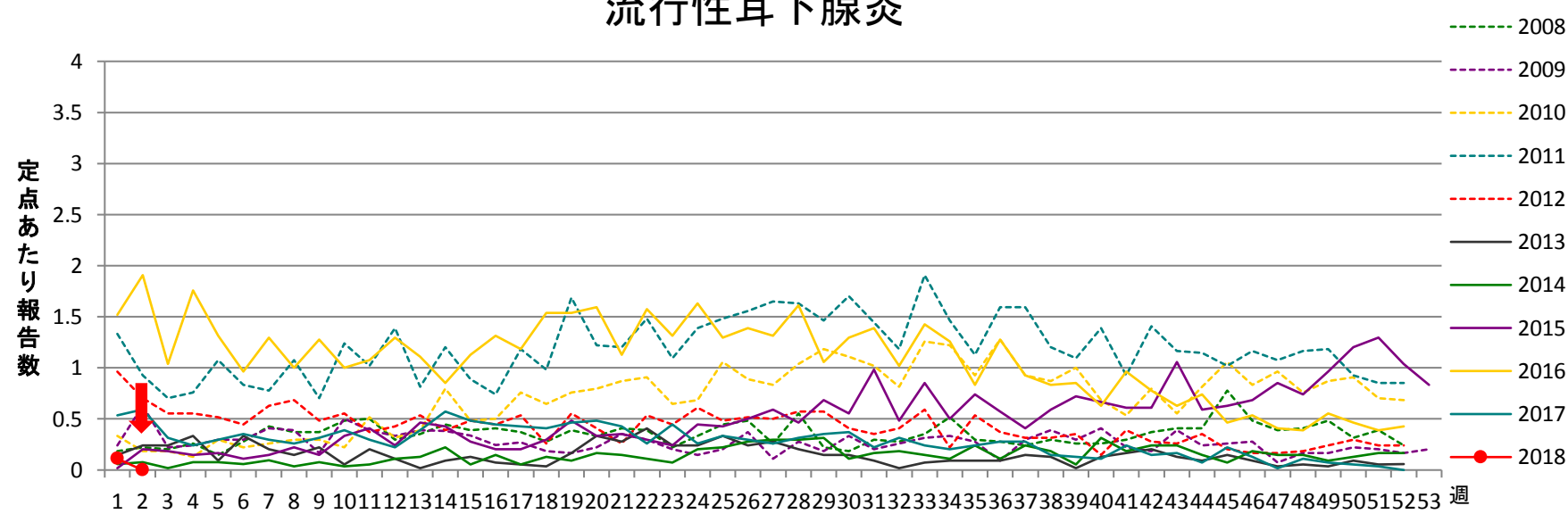
### 突発性発疹



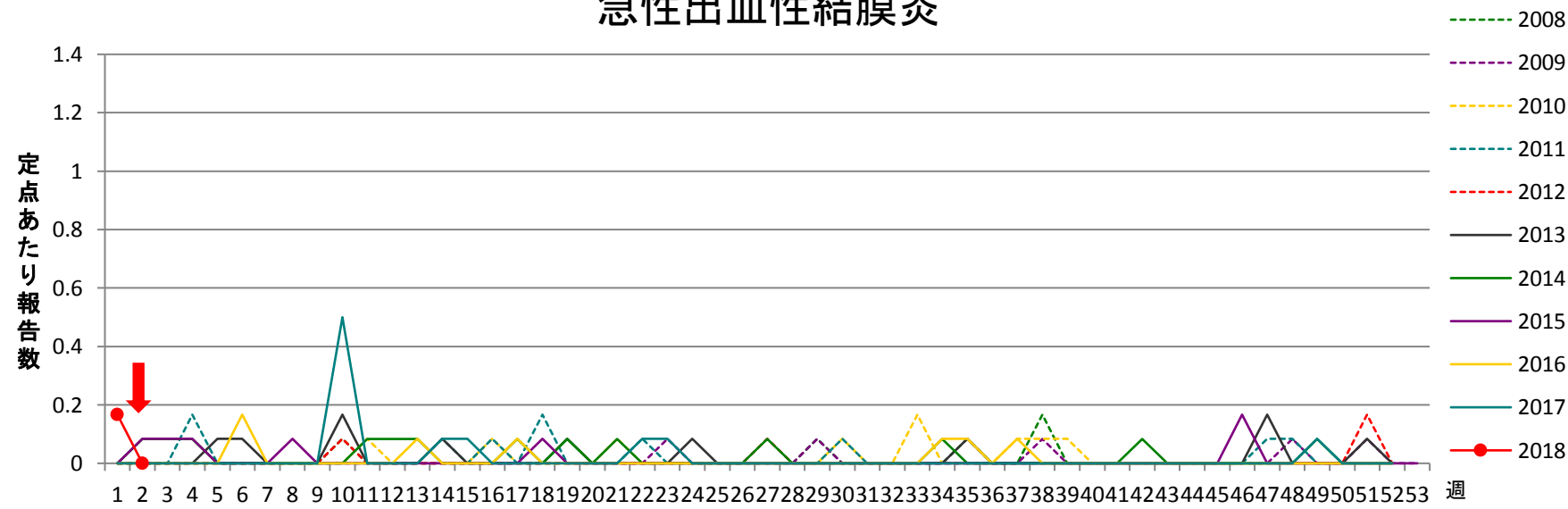
### ヘルパンギーナ



### 流行性耳下腺炎

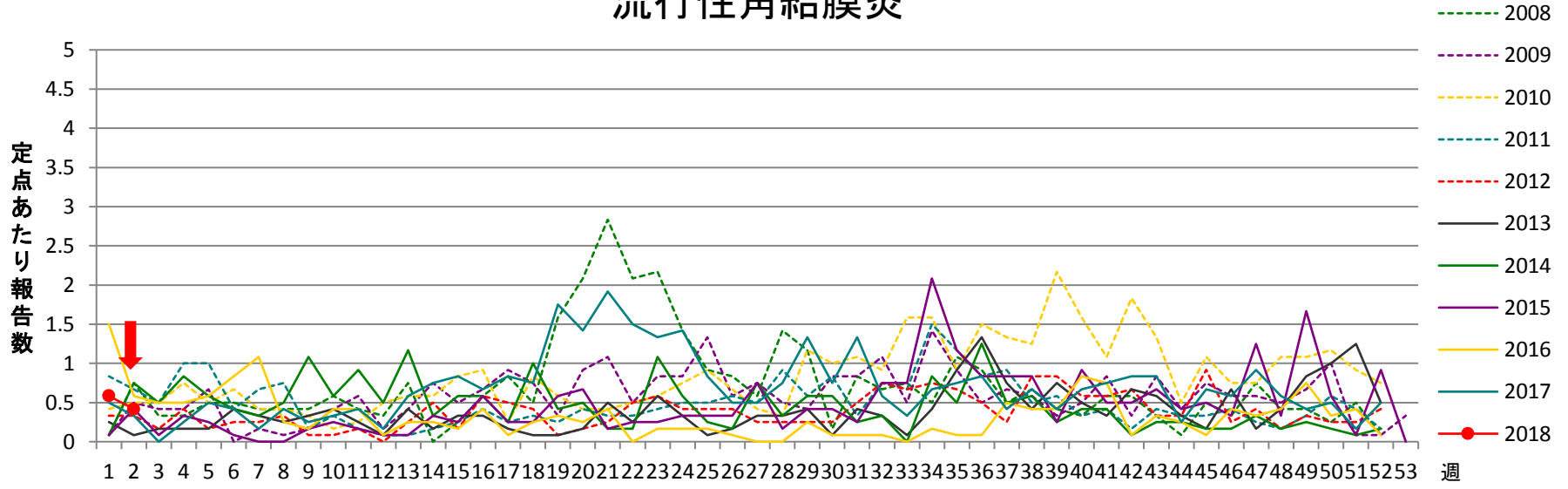


### 急性出血性結膜炎

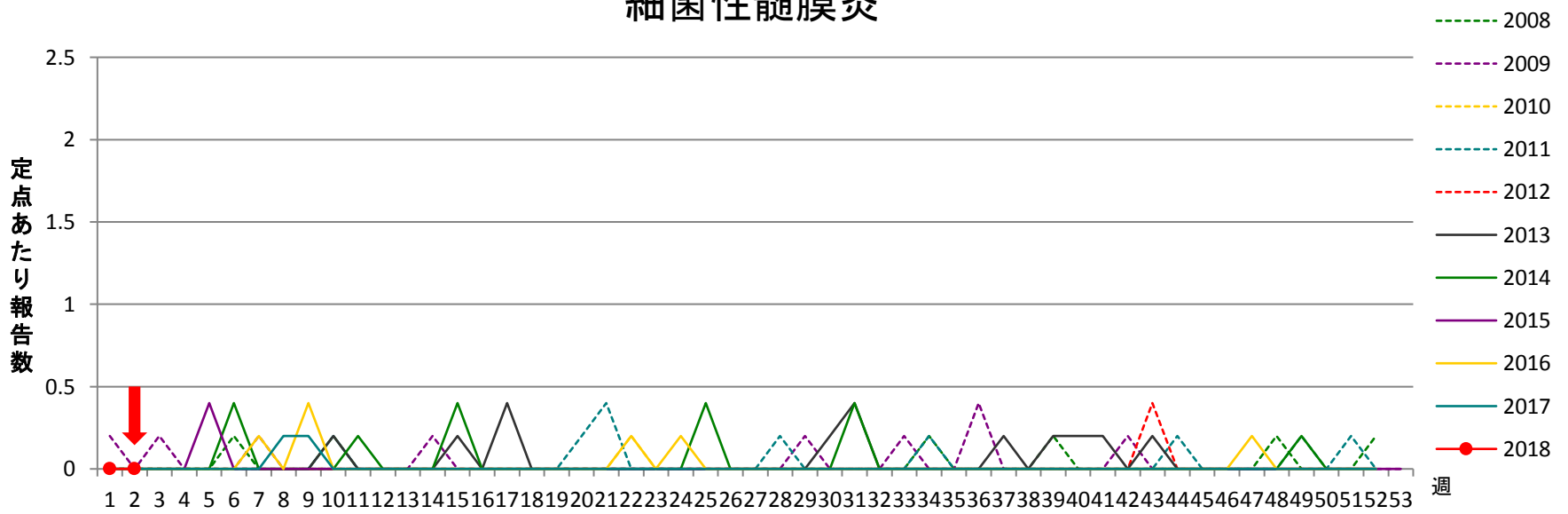




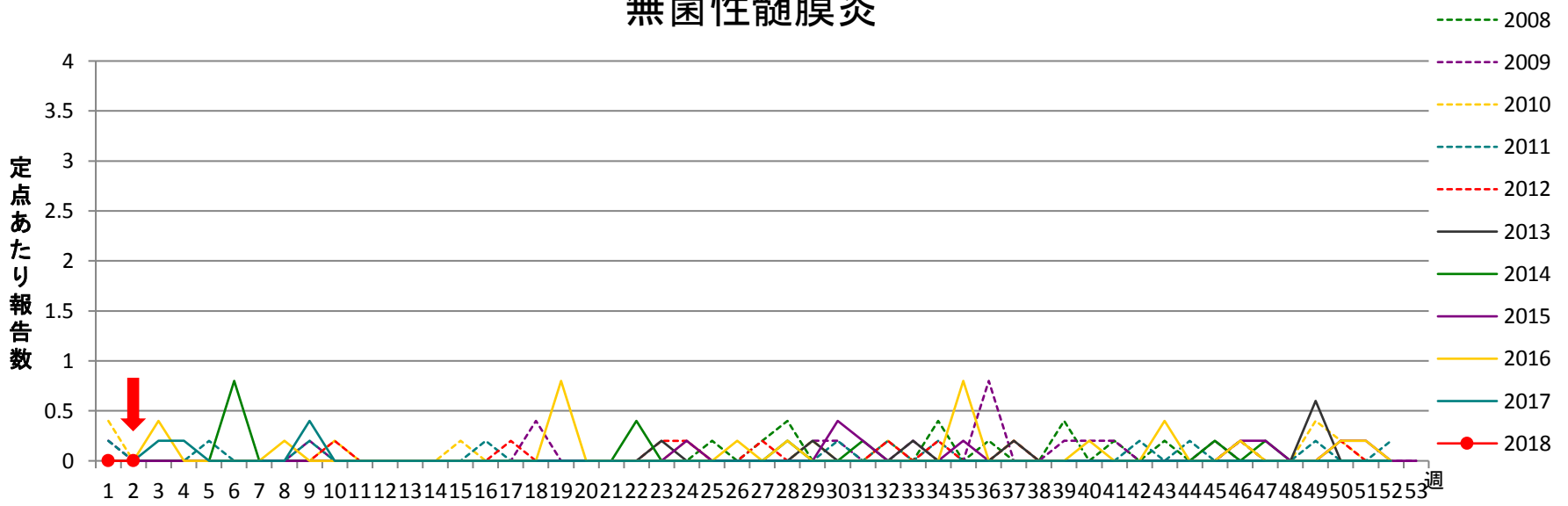
### 流行性角結膜炎



### 細菌性髄膜炎



### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎

